

参加者氏名：高田 良枝

卒業年：2007年 卒業学部：経営学研究科

以下は、参加させていただいた今回のツアーの帰り、飛行機内で、記入したものです。宮城県から帰りわずか2日も経たずに、また東北で大きな地震が発生し、テレビではあの大地震のときのように、右端に日本地図、津波警報・注意報をあらわす赤や黄色の点滅。今回訪れた地域が、震度4で津波が押し寄せています。ささ圭さんの工場は、沿岸部にあり、かさ上げされていない土地で、再建されましたが今回の津波の被害はなかったのでしょうか。心配しています。

東日本大震災発生から約5年半が経ったなか、去年は関東での水害、今年は熊本地震、鳥取地震、九州地方での水害と、大規模な自然災害が起こるなか、東北から離れたところに住む私たちにとって、地震の記憶は徐々に薄れていってその後起こった熊本地震や鳥取地震などに上書きされていっていることは、否定できません。メディアでも取り上げる災害が多すぎて徐々に東日本大震災の放送時間は、少なくなっているように感じます。

今回初めて東北を訪れました。まず、仙台駅に降り立ったときは、繁華街が広がり地震の跡もなく、この5年で、復興していると感じました。

一方沿岸部では、数多くの工事現場、すれ違うダンプカー、街の至る所で、工事がされています。あまりにも範囲が広すぎていつ終わるのか、すべて復興するまでに終わりが見えない、あまりにも大きすぎた災害。至る所で、盛り土がなされ、道路や駅、住宅地などがかさ上げされていました。道路だけがかさ上げされている地域は、旧道路や、難を逃れた住宅はるか下に見え、まるで谷底にあるように感じ異様な光景でした。

しかし、沿岸部の関上地区では、5年が経つというのに、地域によっては、復興がまったく進んでおらず、以前住宅地だったのだろうと感じられる基礎だけが残り雑草が生い茂る地域が延々と広がり何も無いのです。工事すら始まっていません。

被災地や震災発生時の映像を目で見て、被災者の方々から辛い体験談をお聞きし、涙がこみ上げました。

まだまだ復興半ばですが、私たちみんな、被災者を支えていかなければならないと強く感じています。また、日本は、地震大国で、いずれまたどこかで地震は確実に起こるため、過去の地震を風化させず、普段から防災意識を持ち、いざ地震が起こり被災しても被害を最小限に留めることが求められます。私は、今回の体験を家族や友人に伝え、自分自身は、食料など非常時の備えをします。

今回私たちのために、辛く思い出したくない過去に向き合い、また語っていただいた方々には、心から感謝しています。ありがとうございました。